

ロッテバイオロジクス、Ottimo Pharma Ltd との 抗体医薬品の製造受託契約を拡大

ロッテバイオロジクス（本社：韓国ソウル市、共同 CEO：ジェームズ・パク、重光 聡）は、新規の PD-1/VEGFR2 二重パラトープ性（dual-paratopic）抗体を開発する革新的なバイオテクノロジー企業、Ottimo Pharma Ltd（以下：Ottimo Pharma 社 本社：英国ロンドン/米国ボストン CEO：デイビッド・エプスタイン）との協働を拡大し、戦略的パートナーシップをさらに強化いたしました。

今回の取り組みは、昨年 6 月に締結された抗体医薬品の開発・製造受託契約に基づくもので、ロッテバイオロジクスの品質、実行力、および卓越したオペレーションに対する Ottimo Pharma 社の強い信頼を背景に、今回の協働拡大が実現いたしました。

本パートナーシップの拡大は単なる製造受託に留まらず、両社が緊密に連携し、Ottimo Pharma 社の有望な二重パラトープ性抗体「OTP-01」の上市（市場投入）に向けた準備を本格化させるものです。具体的には、米国ニューヨーク州にあるロッテバイオロジクスのシラキウス・バイオキャンパスの開発チームが、商業化プロセスの開発および特性解析活動を全面的に支援いたします。

このパートナーシップの拡大は、両社の強固な関係性を示すものであり、臨床開発から商業化に至るまでクライアントをワンストップで支援するというロッテバイオロジクスの姿勢を改めて体現しています。

CDMO（医薬品開発製造受託）に特化した企業として、ロッテバイオロジクスは、米国のシラキウス・バイオキャンパスと韓国の松島（ソンド）バイオキャンパスの 2 拠点戦略を軸に、開発から製造までの一貫通貫のサービスを提供しています。このグローバルなプラットフォームにより、世界中のクライアントに対して、一貫した品質、柔軟なオペレーション、そして安定した供給体制の提供が可能となります。

【ジェームズ・パク（ロッテバイオロジクス 共同 CEO）コメント】

「パートナー企業との協働の拡大は、CDMO が単に製造を遂行するだけでなく、クライアントの開発品を深く理解し、ともに発展させる存在であるべきだという私たちの信念を裏付けるものです。ロッテバイオロジクスは、クライアントのパイプラインのライフサイクル全体を支援し、商業化と患者さまへの貢献に向けて、スピード、品質、そして拡張性を確実に提供することに全力で取り組んでまいります。」

【スペンサー・フィスク氏（Ottimo Pharma 社 最高技術・品質責任者）コメント】

「Ottimo Pharma 社は、優れたパートナーシップ、品質、迅速な実行力を示してくれたロッテバイオロジクスとの協働を高く評価しています。同社の迅速かつ確実な対応能力は、当社の第 I/IIa 相試験を業界トップクラスのスピードで開始する上で極めて重要な役割を果たしました。OTP-01 の開発を継続するにあたり、この強固な関係をさらに拡大できることを嬉しく思います。」

ロッテバイオリジクスについて

ロッテバイオリジクスは、バイオ医薬品の開発および製造を専門とするグローバルな CDMO 専門企業です。米国ニューヨーク州シラキュース・バイオキャンパスに加え、2026 年 8 月に韓国の松島（ソンド）バイオキャンパス・第 1 プラントの竣工を控えています。米国と韓国のデュアルサイト戦略を活用することで、生産能力と運用柔軟性を更に向上させると共に、変化するグローバルサプライチェーンの動向に対応し、一貫性と信頼性の高い製造ソリューションを提供する計画です。

ロッテバイオリジクスは、承認された拡張的な生産能力と大規模な製造体制を強みに、臨床開発から商業化対応まで、統合された一貫通貫のサービスを通じて、製品の全ライフサイクルにおけるクライアントの支援に尽力してまいります。

株式会社ロッテホールディングスについて (<https://lotte-hd.com/>)

中核事業である菓子・アイス領域をはじめとし、プロ野球球団の運営、不動産、ファイナンス、CVC、ホテル、ヘルスケアなどの事業を展開しています。今後は食品事業のさらなるイノベーションに加え、日本と韓国の事業シーズを掛け合わせたビジネス創出に向けて、果敢にチャレンジしてまいります。

ロッテグループは 1948 年に日本（東京）でチューインガムの製造・販売を開始。現在は、日本と韓国に本社機能を持ち、世界約 35 の国と地域で食品、流通、金融、バイオ医薬、ヘルスケア、データセンター、ホテル/リゾート、エンターテインメント、建設などの領域でビジネスを展開しています。わたしたちは「Lifetime Value Creator」をグループ統一のビジョンとして掲げ、人々のライフサイクルのすべてにおいて価値を提供し続けてまいります。